殺処分のない未来に向けて

　　三重県　鈴鹿市立平田野中学校　三年

　　　　　　　　　　　　　　石田　晴香

　「四万三千」

　みなさん、この数字が何を表しているか、分かりますか。これは、平成二十九年度に殺処分された、犬や猫たちの数です。

私は今、動物愛護活動の一つとして、「預かりボランティア」という活動をしています。このような、動物の殺処分の実態を知り、その悲惨な現実をなくさなければいけないと思ったことが、私が「預かりボランティア」に携わるようになったきっかけです。

「預かりボランティア」は、飼い主のいない犬や猫を、新しい飼い主が見つかるまでお世話するボランティアです。私は、このボランティアに参加してから約二年半になります。今までに、三十匹以上の猫たちを預かりました。その中でも、特に印象に残っている猫がいます。生後二週間で五匹の兄弟といっしょに捨てられていた、「あやめ」です。「あやめ」は、生まれつき右の前足がありませんでした。でも、兄弟と寄り添って暖をとり、ミルクを必死に飲み、こけても何度も何度も立ち上がり、生きることに一生懸命でした。そんな「あやめ」の姿に、私は生きることの素晴らしさや、あきらめない心を教えてもらいました。同時に、「あやめ」を捨てていった人に対する怒りなど、いろいろな感情があふれ、涙がこみ上げてきました。

　増えすぎたから、なつかないから、保健所や動物愛護団体に送られてくる犬や猫は、そんな理由で捨てられる子がほとんどです。人間の勝手な都合だと思いませんか。

では、殺処分をなくすために、私たちができることは何でしょうか。私が今まで動物愛護活動をしてきて、学んだことをもとにみなさんに提案したいと思います。

まず、これから動物を飼うことを考えているみなさん、一番初めに、その子を本当に幸せにしてあげられるのかを考えてください。家族みんなが動物を飼うことに賛成していますか。命を預かる責任はありますか。動物は飼い主を選べません。だから、もう一度よく考えて、飼わないという選択肢があることを忘れないでください。

次に、動物を飼っているみなさん、野良猫の世話をしているみなさん、その子の避妊・去勢手術は済んでいますか。不幸な命を増やさないために、早めに手術をしてあげてください。そして、その子にたっぷりの愛情を注いであげてください。

最後に、殺処分の実態を知って、少しでも心が苦しくなったみなさん、その気持ちを絶対に忘れないでください。動物愛護活動をしている人たちは、意外とみなさんの近くにいます。その人たちに、使わなくなったタオルや服を渡してください。ケージやトイレの掃除に使ったり、犬や猫の布団の代わりになったりして、たくさんあると、とても助かります。動物と直接関わらなくても、動物愛護活動としてできることは、いっぱいあると思います。

私の夢は、獣医師になって動物の命を救い、殺処分ゼロの社会をつくりあげることです。この夢の実現のために、私はこれからも獣医師になるための勉強に励もうと思います。

最初にお伝えしたように、平成二十九年度は、四万三千匹の犬や猫が殺処分されたと環境省は発表しています。二年前の平成二十七年度と比べると、半分近くに減少しました。

この結果からも分かるように、殺処分をなくす取り組みは今、私たちの社会の中に浸透しつつあります。また、ニュースでも動物の虐待が取り上げられ、動物愛護の意識が変わってきていることが感じられるようになりました。でも、殺処分の数は、まだまだ多いですよね。

殺処分をなくすために、みなさんも一度、動物たちの暗く悲しい現実を知り、命の大切さを真剣に考えてください。そして、一つでも多くの命を救う行動をして、人も動物たちも幸せに暮らせる、明るい未来を実現しましょう。